

登録コード:MH262300 開講年度:2026		授業科目区分	専攻専門科目 必修
科目名	ゼミナール 3年【20M・21M】 Seminar		
担当教員	松本 竹久		
対象専攻/学年、講義期間、曜日・時限	検査技術科学専攻/3年 後期 月曜・5時限 月曜・6時限 火曜・5時限 火曜・6時限		
単位数、講義室	2単位	保健学科223講義室 保健学科222講義室	遠隔授業科目
信大コンピテンシー	非該当		
授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素		授業の達成目標
	MH20カリ・保健		
	保健・医療において生じている現象を分析し、健康問題を解決するために必要な科学的根拠に基づいた判断の進め方について理解することができる。	⇔	各種の検査を実施するにあたり、手技に注意事項や安全管理の概要を理解し説明できるようになる。
	保健・医療・福祉の現場において、専門職者として自己の責任を自覚し、チームの一員として協働活動に参加できる。	⇔	医療の現場においてチーム医療の重要性と臨床検査技師としての責任を自覚し、その中での臨床検査技師の関わり方を理解する。 合併症と医療事故および患者対応について説明できる。
	多くの学問分野に接して幅広い教養と探求的、創造的思考を身に付け、保健・医療の専門職者として必要な学修課題や目標を自ら設定し、常に課題の克服や目標達成に取り組むことができる。	⇔	医療の専門職として医療安全の実践に必要な知識と技能を修得し、医療の現場で活用できるようになる。
授業で学べる「テーマ」	健康長寿		
全学横断特別教育プログラム			
授業概要	各種の検査を実施するにあたり、手技に伴う注意事項や安全管理の概要を理解する。検査手技として以下の手技を含める。①静脈路への成分採血装置の接続並びに操作，②運動誘発電位検査・体性感覚誘発電位検査に係る電極装着（針電極含む）・脱着，③超音波検査における静脈路からの造影剤注入，④直腸肛門機能検査，⑤持続皮下グルコース測定 また，微生物学的検査等における検体採取（①皮膚表在組織病変部，②鼻腔拭い液，③咽頭拭い液，④鼻腔吸引液，⑤喀痰吸引（気管カニューレ内部からの採取も含む），⑥消化管内視鏡検査による組織検体の採取）と注意事項・安全管理の概要を理解し，その基本技術を修得する。 本授業は，3年次前期の「臨床検査管理学」の知識を前提とし，3年次後期の「医療安全学II・医療安全学実習II」の内容と相補的に学ぶ。本授業で修得する知識と技能は，4年次の臨床実習および卒業研究において必須である。 本授業は，担当教員の医療機関における医療職としての実務経験を活かし，実習，演習を行う。		
授業計画	第1回（9月29日）ガイダンス 各種検査等の手技に伴う注意事項・安全管理（松本） 第2回（10月6日）静脈路への成分採血装置の接続並びに操作（松本） 第3回（10月13日）誘発電位検査にかかる電極装着（針電極含む）・脱着（矢崎、平） 第4回（10月20日）超音波検査における静脈路からの造影剤注入（矢崎） 第5回（10月27日）直腸肛門機能検査（太田） 第6回（11月10日）持続皮下グルコース測定（松田） 第7回（11月17日）微生物学的検査等における検体採取と注意事項，安全管理（松本） 第8回（11月24日）中間試験（松本） 第9回（12月1日）喀痰吸引（気管カニューレ内部からの採取も含む）（安尾、松本、重藤） 消化管内視鏡検査による組織検体の採取 第10回（12月8日）各種検査における検体採取と注意事項・安全管理（木村） 第11回（12月15日）皮膚表在組織病変部からの検体採取【学内実習】（松本、新井） 第12回（12月22日）鼻腔拭い液の採取【学内実習】（安尾） 第13回（1月5日）咽頭拭い液の採取【学内実習】（新井） 第14回（1月12日）鼻腔吸引液の採取【学内実習】（安尾） 第15回（1月19日）経口・経鼻または気管カニューレ内部からの喀痰吸引【学内実習】 （安尾、重藤）授業アンケート 第16回（1月26日）期末試験（松本）		
授業の進め方	プリント，スライドを用いる講義と各種検体採取に関しては学内実習を行なう。		
テキスト，教材，参考書	最新 臨床検査学講座 医療安全管理学 第2版 医歯薬出版		
成績評価の方法	筆記試験、課題レポートに基づいて総括的に成績を評価する。 総括評価の配分は，筆記試験80%，課題レポート20%とし，60%以上の獲得を合格とする。		
成績評価の基準	【筆記試験の評価基準】 講義内容と同レベルの問題が解ければ「水準にある(可)」，応用問題が解ければ「やや上にある(良)」，やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある(優)」，講義内容からは難しい応用問題が解ければ「卓越している(秀)」ことを基準とする。 【課題レポートの評価基準】 課題の目的・方法・結果が正確に記述されていれば「水準にある」，目的・方法・結果のより		

成績評価の基準	詳細な記載があり、且つ考察が理論的に展開されていれば「やや上にある」、考察に論文の引用や自分の見解が提示されていればその程度に応じて 「かなり上にある」～「卓越している」と評価する。ただし、ウェブサイト等からの転用、盗用が発覚した場合には当該レポートの評価は不可（0点）とする。 成績評価の判定基準は、90～100点が秀、80～89点が優、70～79点が良、60～69点が可とする。
事前事後学習の内容	【事前学習について】 これまでに臨床検査学の各教科の授業で学んだ内容を整理し、総合的な復習を行ってから授業に臨むこと。 【事後学習について】 講義、教科書、配布資料に基づき復習を行う。また理解不足の内容については必ず自分で調べたり、担当教員に質問し解決しておく。 本授業の単位修得には45時間の学習が必要であるため、以下のような学習時間を必要とします。 授業時間30時間（2時間×15回）＋ 自己学習時間15時間（1時間×15回）＝ 45時間 ＊以上の自己学習時間を考慮して、事前・事後学習に意欲的に取り組んでください。
学生へのメッセージ並びに質問，相談への対応	これまで学んだ知識や技術を包括的に身に付ける重要な講義となるため、事前、事後学習により体系的な理解度を高めていく必要がある。 なお、講義内容や各教員の担当日は変更になることがあり、正式な日程・担当教員については、初日のガイダンスで連絡する。 個別の質問等は随時受け付ける。 質問への対応 山内一由 yamauchi@shinshu-u.ac.jp 矢崎正英 mayazaki@shinshu-u.ac.jp 太田浩良 hohta@shinshu-u.ac.jp 松田和之 matsuda@shinshu-u.ac.jp 松本竹久 tmatsumoto@shinshu-u.ac.jp 安尾将法 yasumasa@shinshu-u.ac.jp 木村文一 kimura_f@shinshu-u.ac.jp 樋口由美子 sasa0922@shinshu-u.ac.jp 平千明 tairacha@shinshu-u.ac.jp 新井慎平 arais@shinshu-u.ac.jp 重藤聖子 seikok@shinshu-u.ac.jp